～ 特別企画 ～

聖隷富士病院での半年間を振り返る

2024 年 10 月の地域包括医療病棟の開設に伴い、聖隷福祉事業団より当院へ 3 名が出向し、業務に当たっていただきました。2025 年 3 月末で出向が終了し、各病院へ戻ることになった 2 名のスタッフと一緒に、この半年間を振り返ってみました。

M さん：理学療法士（聖隷浜松病院より出向）

S さん：理学療法士（聖隷袋井市民病院より出向）

◈ 聖隷富士病院への赴任

―― 出向前、聖隷富士病院にどんなイメージを持っていましたか？

Sさん：正直なところ、ほとんど知りませんでした。自分の周囲でも異動の話はよくありましたが、聖隷浜松病院や聖隷三方原病院に行くケースが多かったので…。

Mさん：私も詳しくは知りませんでしたが、以前、浜松病院で働いていた医師が富士病院に赴任していたので、「整形外科に力を入れている病院なのかな？」という印象は持っていました。

―― 実際に働いてみて、そのイメージは変わりましたか？

Mさん：そうですね。整形外科だけでなく内科の患者さんも多く、病棟ごとに機能が分かれていて、慣れるまでは戸惑いましたね。急性期、地域包括ケア病棟、在宅（訪問リハ）まで幅広く関われるのは魅力的でした。

Sさん：私も同じですが、特に急性期の大変さが印象的でした。普段は回復期病棟で働いているので、急性期での業務を経験できたのは大きかったです。
Mくんは、地域包括医療病棟の立ち上げにも関わったよね？

Mさん：うん、大変だった（笑）。

―― どんな点が大変でしたか？

Mさん：病棟の開設に関わるのは初めてでしたし、地域包括医療病棟自体の前例が少なく、「どんな業務をしていくのか」手探り状態でした。最初は仕事が少なくて戸惑うこともありましたが、課題が次々と出てくる中で、その解決方法を模索する経験は、自分にとって大きな成長につながりました。

◈ 聖隷グループのつながり

―― その経験は、今後の仕事に活かせそうですか？

Mさん：間違いなく活かせると思います。課題が生じたとき、「すぐに対応すべきものか」「時間をかけて他職種と連携しながら進めるべきものか」を判断する力がつきました。聖隷浜松病院でも、こうした視点で課題解決に取り組みたいです。

―― Sさんは、どんな経験が印象に残りましたか？

Sさん：急性期の業務ですね。もともと「急性期の患者さんは安静期間が長く、積極的なリハビリは難しいのかな」というイメージがありました。でも、実際には手術翌日からリハ介入が始まることも

多く、そのスピード感に驚きました。あと、手術見学もさせてもらえて、とても勉強になりました。この経験を袋井のメンバーにも共有したいですし、今後の治療にも活かしたいですね。

―― 各病院に戻ってからも、つながりを続けていけたらいいですね。

M さん：聖隷リハ学会などでまた顔を合わせる機会もあると思うので、一緒に何かできるといいですね。

S さん：本当にそう思います！富士病院での取り組みを学会発表などを通じて発信してもらいたいし、私もここで得た知識や経験を周囲に伝えていきたいです。聖隷富士病院の良さも伝えていきます。せっかくできたつながりを大切にしたいですね！

◈ 聖隷富士病院の魅力

―― 聖隷富士病院の魅力とは？

S さん：明るいスタッフが多く、職場全体の雰囲気がとても良いですね。若手の活気も感じられます。

M さん：大きすぎない規模感がちょうどよく、ベテランのスタッフとも気軽に相談できる環境が整っていると思います。個々のスタッフをしっかり見てくれるのもありがたいですね。

S さん：うん、自然と OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）ができる環境ですよね。地域包括医療病棟と地域包括ケア病棟がうまく機能しているのも、リハの質がしっかりと担保されている証拠だと思います。

M さん：そうですね。急性期から在宅までシームレスに関われるのは大きな魅力です。浜松病院では、超急性期の関わりが中心で、患者さんがすぐに転院・退院してしまうことも多く、長期的な経過を見届ける機会が少ないんです。でも富士病院では、幅広い疾患の患者さんにじっくり関われるので、学びも多く成長できる環境だと感じました！

◈ 最後に

司会：本日はありがとうございました。これからも同じ聖隷グループのリハビリスタッフとして、一緒に盛り上げていきましょう！